

湘友会報 2008

創立 87 周年・50 号記念

第 50 号・2008 年発行
湘南高等学校湘友会事務所

〒251-0053 藤沢市本町 3-1-3 湘南ビル 301
電話・fax 0466-50-0386

<原則として月・水・金の 13:00~16:00 に事務所幹事室在室>
E-mail: shoyukai@cityfujisawa.ne.jp
<http://www.shoyukai.org>

2008 年度湘友会総会のご案内

皆様のご出席をお待ちしております

日時 平成 20 年 6 月 21 日 (土)

受付 午前 10 時 00 分

開会 午前 10 時 30 分

場所 湘南高校内 湘南会館

総会終了後「講演会」(右記事)

懇親会: 午後 1 時 15 分 清明会館食堂

懇親会会費 2,000 円 (当日会場受付で受領)

アルコールなしの会食形式です。

校歌祭の練習も行います。

講演会

精神科医 雪竹 靖衛 氏 (38 回)
「太陽の季節」 その精神医学的考察

<雪竹 靖衛 氏 略歴>

神奈川県葉山町に育つ

1963 年 神奈川県立湘南高等学校卒業

1971 年 群馬大学医学部卒業

1977 年 群馬大学医学部精神学教室入局

1980 年 山梨医科大学に赴任

1982 年 米国テキサス州立大学に留学

1986 年 群馬県榛名病院副院長

1994 年 群馬県渋川市にて精神科「泉」病院開設

2007 年 小説「はめ殺しの窓」

全国新聞社出版協議会・優秀賞受賞
開業医の傍ら同人誌「猿」に参加、小説・エッセイを発表。

「こんな時代だから大変だ!」とよく言われるが、「こんな時代」とはどんな時代だろうか? 世間では、人間性が失われたのか、人情味が希薄になったのか、地域社会の中のつながりが濃厚であった何十年前だったら起こりえない

思いもよらない事件が世上を賑わしています。隣人・親子といった狭い社会関係の中だけでなく、社会の仕組みをリードしていく教育関係をはじめとした行政・政治の世界でも、人間性欠如から生じていると言われる問題・事件が多く聞かれる日常になって来てしまっています。

なぜ「こんな時代」が到来したのだろうか...? 戦中末期に生まれ、戦後復興期に子ども時代、多感な青春時代を高度経済成長期に過ごし、今日、精神科開業医として「境界型人格障害」と言われる心を病んだ患者を数多く診ている専門の立場から、戦後からの時代の流れの中を通して「こんな時代」とはどんな時代なのか話していただきます。医業のかたわら小説・エッセイを手掛けている関係で、石原慎太郎氏「太陽の季節」の出現と時代の背景も絡んでの話が楽しみです。



卒業回数末尾が「8」の皆さんへ

全日制: 38・48・58・68・78 回生

定時制・通信制: 8・18・28・38・48 回生

総会運営の輪番参加と「10 年会費」納入のお願い

湘友会では 1997 年から「湘友会細則」を改め、卒業回数の末尾が西暦の末尾の数字と一致する会員が輪番で総会運営に当たるとともに、「10 年会費 5,000 円」を納入していただく方式を実施しています。本年は、「8」ですので、よろしくお願い致します。

なお、今年の総会運営に当たります輪番の皆さんは、特にご出席くださるようお願い致します。

1952 年卒業以降で今まで輪番年に「10 年会費」未納の方は、下記宛に払い込みをお願いします。郵便局の払込取扱票が必要な方は、湘友会事務所へ請求いただければ、送付致します。

【郵便局振込】

口座番号 : 00250 - 4 - 14177 (右詰めに記入)

加入者名 : 湘友会

金額 : 5,000 円

通信欄に、「10 年会費」「卒業回数」を明記して下さい。

湘友会員の皆様へ

湘友会会長 天野 武和



湘友会員の皆様にはご健勝にお過ごしのこととお慶び申し上げます。

ここに湘友会報を 50 号記念号としてお届けすることができることを、大変喜ばしく思います。

編集に携わってくださった役員をはじめご協力いただいた会員の方々に厚く御礼申し上げます。

湘友会員は、各支部、部活OB・OG会、卒業同期生の会やクラス会、あるいは仕事を通じての集いなど、さまざまな形で結びつきを強めかつ広げており、インターネット上での交流も活発化しております。私達が青春の一時期を振り返るとき、誇りを持って「湘南」のキャンパス、恩師、友人達を思い起こすことができるのは、誠に幸せなことです。これからも後輩達がその恩恵に浴していられるように、湘友会は単に会員の親睦に止まらず、母校のために役立てることがあれば組織として何かしたい、というスタンスに立っています。アメリカではPTAという略語を、Parents, Teachers & Alumni (卒業生)と読みかえ、卒業生の役割が重要視されるようになってきていると聞きます。

教育は、大人社会全体の問題として責任を果たしていく必要があることは申すまでもありませんが、卒業生の立場で母校へ関心を持つことがこの問題への身近な入口のひとつとなるはずで

す。母校は昨年春、県教育委員会から学力向上進学重点校の一つに指定されました。会員の中には「何を今さら」と感じる方もおられるでしょうが、学校間に学力格差が生じることは好ましくらずとして、平準化重視が続いてきたことを考えれば大きな方向転換です。

ほぼ同時期に着任された川井現校長は「湘南高校のミッションは、生徒に高い学力をつけさせ進学で一段上の希望を実現させること、及び文武両道、社会のリーダーたりうる人材を育てること」と明確に打ち出して施策に移しておられます。必ずや現場の先生と生徒に浸透していき「湘南」の伝統は時代にあわせて受継がれていくことでしょう。

その方向に沿った形で、湘友会は母校を引き続きバックアップしていきたいと考えており、会員各位の層のご協力をお願いいたします。

さて、母校通信制課程が本年3月をもって分離され、横浜平沼高校通信制と併合されて横浜市緑区内に通信制独立校(横浜修悠館高校)となって新たにスタートしました。湘南高校通信制は、その60年の歴史に幕を降ろしましたが、終戦からこのかた「湘南」の名が、働きながら学ぶ多くの少年少女、成年者を魅きつけ励ましてきたという、その貴重な歴史を後世に留めるため、通信制同窓会「むつみ会」に協力して校庭内に記念碑を建立する準備を進めております。

結びとして、湘友会活動に献身的にご尽力くださっている役員をはじめ会員の皆様に対して、重ねて深く感謝申し上げます。フレー、フレー 湘南!

赤木先生の学校づくりに学びながら

湘南高校校長 川井 陽一



昨年4月着任以来、湘友会の数多くの会合にお招きをいただき、出席をさせていただいております。会合において、卒業生の皆様が一言に言われることは、「湘南の生活が現在の自分をつくっている」ということです。

もう一つ感じるの、は、「同窓であることに誇りを持ち、絆を大切にしている」ということです。卒業生の皆様お一人お一人の人生に占める湘南の意義について、改めて感じる次第です。

多くの方々のご努力の上に培われた湘南高校の文武両道の良き伝統は、今日に尚引き継がれております。この伝統は今後もぜひ大切にしていきたいと思

います。ところで、湘南高校は、昨年5月に神奈川県教育委員会より学力向上進学重点校の指定を受けました。湘南高校に今求められているのは、文武両道の伝統を大切に、全人的な人間形成を図りながら、一方で、生徒の希望する進路実現を最大限支援することにあります。

生徒の進路実現、言い換えれば、進学実績への信頼なくして、湘南高校への信頼はないと考えています。学力向上進学重点校指定を機に、この点について工夫、改善を図っているところ

です。私自身、赤木愛太郎先生の目指した学校づくりを目標に、生徒がそして湘南高校が一層輝きを増すよう努力してまいります。

湘友会の皆様には、キャリア教育を始め本校の教育活動に関し全面的なご支援をいただき、篤くお礼申し上げます。ぜひ、今後とも、各方面でのお力添えを心よりお願い申し上げます。

新入生向け小冊子「秀麗の富士 湘南」第2版発行



湘友会では、昨年度より、新入生(全日制)を対象に小冊子を配付しています。第2版は、湘南高校の歴史を中心に、「ようこそ湘南高校へ 先輩から一言」など内容をさらに充実し、B5版24ページです。表紙の色は、新入生の学年カラーに合わせ、「青」。湘南高校での有意義な高校生活と、新しい伝統作りに役立ててほしいと願っています。

新入会員向け小冊子(第5版)も発行配布しました。

湘南高校 Now

この1年も湘南高校は活気にあふれ、生徒はきらきら輝いていました。

学力向上進学重点校

4月、湘南高校では最初の独自問題を受検した生徒を迎え、5月には神奈川県教育委員会から「学力向上進学重点校」の指定を受けました。「進学重点校」ということばの響きに時代の要請を感じつつ、高い進学意欲を持つ生徒の支援は本校の務め、指定を受けることは本校のこれまでの実績等を振り返るに当然のこととも思います。

夏期講習を時間割制にしたところ、前年度比4倍以上の約40講座の開講となりました。3年生は体育祭の準備をしつつ、1,2年生は部活動に励みつつ夏期講習においても真剣に学んでいました。また自学自習の環境づくりとして自習室の整備を行いました。今後もこのような様々な取組が必要だとは考えていますが、最も大切なのは日頃の授業であることは言うまでもありません。「進学重点校」の指定は受けましたが、今も生徒は受験に必要であるかにかかわらず多くの科目を学んでいます。これまで2年生で物理と生物の選択履修がありましたが、20年度入学生からはこの選択が解消され、1,2年生の間は全員が同科目履修を行う教育課程に改めることができました。

「学力向上進学重点校になって、体育祭は縮小されるのですか？」このような質問を保護者や卒業生から受ける機会がありました。体育祭だけでなく湘南の行事や日々の生活は、生徒の協調性あるいはリーダーシップを高め、人間形成に大きく関わっています。湘南高校のミッションの一つは、生徒の進学希望の実現とともに将来社会のリーダーとなれる人物を育てることにあります。これからも盛んな行事や部活動を通じて生徒の成長を支援していきたいと考えています。

湘南の一年

文化祭：昨年の文化祭は全・定・通3課程合同の開催としては最後となりました。例年どおり広い校舎をフルに使っての文化祭、多目的ホールで行われる発表には開場前から長い行列ができました。今年の文化祭は6月14日(土)、15日(日)に開催されます。

合唱コンクール：湘南の合唱コンクールは3年生まで生徒全員が参加することが大きな特色です。クラスで一つの作品をつくりあげ絆を強めていく合唱コンクール、今年は7月10日に座間市で開催の予定です。

体育祭：最大の行事体育祭は9月17日敬老の日を実施されました。3000人とも4000人とも思われる大勢の観客がスタンドとスロープを埋め尽くしました。湘南生の汗とエネルギーの祭典、衣装もバックボードも競技も見応えのあるものでした。湘南の体育祭を見る

たびに思うのは、湘南生のひたむきさと、先輩から継承した伝統を守り発展させることへの生徒の責任感。今年も素晴らしい青春の息吹を伝えてくれることと思います。9月15日敬老の日の実施の予定です。

修学旅行：昨年度は10月23日から27日の日程で京都と神戸を宿泊地とし班別行動を主体とする修学旅行



が実施されました。大変充実した班別による行動が行われ、宿に戻

ったときの生徒の満足度はかなり高いものでした。高校生ならではの京都体験だったと思います。

対組：今も変わらず昼休みに歓声が響き渡っています。最後は対組駅伝。今は烏森からソニーを回ってという訳にはいかず、辻堂海浜公園で実施となっています。走る生徒の姿も声援をおくる生徒の姿も昔のままです。

湘南生の活躍

進学においてもベストを尽くし、部活動においてもベストを尽くす湘南。県主催のポスターコンクールで最優秀賞を受賞し、その作品が「薬物乱用防止ポスター」となった生徒、ラグビーの県代表選手の一人となった生徒、インターハイや関東大会への出場もありました。何に対しても最大限に努力する姿に感動です。

ざっと1年を振り返りました。まだまだ書き尽くせない気持ちです。湘南高校のホームページをリニューアルしました。最近の様子はホームページで是非ともご覧ください。

<http://www.shonan-h.pen-kanagawa.ed.jp/>

(副校長 小田貞宏)



体育祭 衣装の演技



「湘友会報」50号記念 赤木校長先生の思い出



昨年49号の赤木先生のお嬢様からの記事に続き、母校で教鞭をとられた二人の先生からの思い出寄稿です。

鈴木 總一 (22回・在任：昭和45～58年)

私が入学したのは、太平洋戦争に突入した翌年の昭和17年。先生はすでに70歳前後。直接言葉をかけて頂いたことは全くない。

入学してしばらくたつと湘南出身の先生が結構おられるのに気づいた。国語の金子節常(3回)、数学の浅沼早苗(4回)、体操の山崎弥太郎(1回)、藤原俊彦(3回)の諸先生には直接教えを受けた。卒業までには国語の添田徳積(7回)、英語の武藤孝男(13回)両先生にも教わった。これら教え子がこぞって「赤木先生は偉い。」と言われるのだから、生徒皆から慕われる所謂カリスマ校長であったのであろう。

先生はよく教室に入って、授業を見て回られた。ドアはいつも開放されていたから、学校の方針だろう。私ら後方に座っていた者が気づく程度の短時間であった。

月に何度か剣集(剣道場集合)・運集・体集があった。全校生徒が集められ、全体への説教や連絡事項を聞くのであったが、赤木先生もしばしば話をされた。ほとんど思い出さないが、誰かが何かをしたのか「心せよ 校外飲食 カンニング ぐれと盗みは なおさらのこと」と戯れ歌まがいにかつられた。5年生の時、また運集があった。すこし不穏な状況のようだ。外部の人が生徒の校外の行動にクレームをつけたいらしい。生徒をかばって、「そんなこと屁の河童じゃい。」ふだん聞いたこともない荒い言葉なので耳に残っている。

私が母校の教員になって後、旧担任の金子先生から赤木先生について伺った話。金子先生は陸上部長距離の選手。入学して数年たった時、県下駅伝大会があり金子先生がアンカーを走った。最後に他校の何人かをごぼう抜きして上位でゴールしたら、赤木先生が「よくやった。」と抱き留めてくれた。

赤木先生は「日本一」が大好きとは評判のこと。5年生の11月、蹴球部が西宮球場で宿敵神戸一中を撃破、念願の全国制覇を遂げた。それを思い出し仲間の桑田孝君に電話した。彼はすらすらと当時の同級生のレギュラー香川嵩、佐々木茂、松浦正美、松岡巖、宮沢昭夫、山中康央の名を挙げた。「ところで、赤木先生からどんなほめ言葉を貰ったか。」という、「いや、何も

なかったよ。ただ、部長の香川先生が赤木先生から後援会の金を貰ってきたようで宿の待遇がとてもよかったよ。」そうか日本一になってもほめ言葉は掛ける必要がなかったのか、と妙に安心した。

落合 寿 (22回・在任：昭和29～55年)

私の湘南時代は戦争中で、ほとんど工場動員のため、学校に行くこともできず、赤木先生とは、当時、校長先生と一生徒の私とは、天と地の差があり、接する機会はほとんどなかった。終戦になり学校に戻っても、ご多忙の校長先生とは同じ状況であった。

このような中で、鮮明に今でも頭に残っていることが二つある。その一つは、朝礼等で全校生徒に言われた言葉で「心せよ 校外飲食 カンニング ぐれと盗みは なおさらのこと」のお話であり、もう一つは、校庭で友人とテニスボールでキャッチボールをしていた時、たまたま通りかかった赤木先生に「蹴球(サッカー)をしなさい、蹴球のヘディングは頭を使うので、頭が良くなるから」といわれ、なんの疑いもなくそれから蹴球に夢中になった。

トピックス

白秋の孫・北原ルミさん校歌揮毫 ～ 北原白秋念館へ寄贈 ～

湘友会は、さる2月5日福岡県柳川市にある北原白秋記念館へ、白秋のお孫さんで母校65回卒業生の北原ルミさんの書による校歌を寄贈し、大変喜ばれた。



北原ルミさんと天野武和会長

初代赤木愛太郎校長が「日本一の中学にしたい」という意欲を強く持たれていたことは、広く知られており、早くからそれは現実のものとなっていたが、それに相応しい校歌を、と

ということになると拙速は許されず、北原白秋の詞に山田耕筰が作曲して校歌が生まれたのは開校から12年後の昭和8年(1933年)のことであった。

白秋は、全国の小学校から大学まで、校歌といわれるものを実に101曲作詞しているが、山田耕筰とのコンビも多く、いずれも名曲といわれている。

福岡県柳川市には、白秋の生家(江戸時代から明治にかけての豪商)が残されており、敷地内に併設された白秋記念館とともに一般に公開されている。

そこには、たくさんの展示品にまじって白秋作詞に

よる校歌のいくつかが、それぞれの学校関係者の寄贈によって肉筆書きあるいは印刷物の形で掲示されている。湘南中学（新制高校）校歌もかなり以前から、色紙に書かれて展示されていて、参観に訪れた



北原白秋生家・記念館

た会員を感激させてきた。しかし、何ぶんにも時の経過とともに色が黄ばんできたため、湘友会は、和紙に清書して額装し、より長期の保存に耐えられるかたちにして寄贈することにした。折しも今年1月から3月まで、同記念館において白秋作詞の校歌を集めた特別展が開催されるというタイミングであった。

されば、どなたに揮毫していただくかということになり、北原ルミさんに白羽の矢を立てた。北原さんは、現在名古屋の金城学院大学言語文化学科講師としてフランス文学を講じておられるが、お願いした時期は極めてご多忙、かつ「一般に公開する目的の書であれば、湘友会員の書家の方などに依頼を・・・」と、固辞なされたが、湘友会からのたつての願いを聞きとどけていただけただけなのは幸いであった。原作のままを、一字一字丁寧に美しい筆致で書き上げてくださった。

九州在住の会員、楠田（22回）、鍋島（30回）、上村（33回）、中村（33回）の諸氏とともに天野会長が柳川市に北原白秋記念館を訪ね、上村好生館長（市教育長兼務）、都留秀春事務局長列席のもと贈呈式が行われ、その模様は地元紙でも報じられた。



館長から「お孫さんが在学中に祖父白秋の校歌を歌っていらしたとは、そしてそのお孫さんが書いてくださったとは、素晴らしいご縁で私も大変うれしく

思います。大切に保管し常設展示します」と、大いに感謝された。

九州在住の会員はもちろん、全国の会員の方々も、機会があればぜひ柳川市内の「北原白秋生家・北原白秋記念館」を参観なさることをお勧めする。なお、無料招待状が湘友会事務所にあるので、ご入用の方はご連絡いただきたい。

先生方の湘南回顧録

湘南と春原先生

竹下 直之 （在任：昭和21～53年）

平成19年11月17日、春原淳三先生の告別式が、藤沢駅北口近くの葬儀場で行われた。

先生は97才、天寿を全うされた。祭壇には、胸に勲四等瑞宝章をつけられ、スマートな背広姿の遺影、

とても米寿とは思えない若々しいお姿である。菊の花に埋まった柩は、多数の湘南卒業生の献花に囲まれていた。斎場入口のロビーには、叙勲の表彰状・勲章、その傍に、先生の愛する湘南生に宛てられたメッセージ、晩年ご愛用の南天の木で作った手製の杖があった。

湘南中学校の歴史は、赤木愛太郎先生が、創立当初から学制改革で湘南高等学校になるまで、27年間、ただ一人の校長として、経営に尽瘁された足跡である。春原先生は、中学の時代に14年間、高校時代にも14年間勤務された。湘南と春原先生を語るとき、湘南の歩みをたどることになる。



大正10年春、地元待望の湘南中学校が創設され、文部省告示で、新潟女子師範学校校長赤木先生が校長となられた。卓抜な赤木先生は「日本一」の中学校を目途され、着々と実行された。創立間もない大正12年、思わぬ災害関東大震災が起こった。二階建一棟の校舎は大破損した。新校舎の落成は、大正14年である。しかし、そういう環境にかかわらず、第1回生の進学状況は、4年生の修了時には、官立高校に7名進学し、新設中学として注視された。昭和3年末、校旗制定。昭和5年末、プールの完成。昭和6年、第一次運動場拡張が行われ、10周年の祝賀会は来賓多数で行われた。昭和8年、北原白秋氏作詞、山田耕筰氏作曲による湘南の誇る校歌「秀麗の富士を高く、西に仰ぐこの丘・・・」が出来た。また、校門の両側及び校庭の周囲に、楠公誕生地の楠の苗木が移植された。

赤木校長は、教員の採用には特に意を用いられた。昭和9年4月、春原先生は数学の教員として着任、歓迎・期待された。

10周年を越えた校友会各部署は力強い活動を始めていた。15周年事業として、乾燥期の砂塵渦巻くグラウンドの一助にと、上庭に立派な体育館が建設され、また校舎の中庭に、池・噴水・温室のある作業園「春光園」が出来た。学校の態勢は整い、躍進の期を迎えていた。校長の智・徳・体三育の調和的発達を目差された指導の成果が上り、昭和13年、文部大臣より体育表彰を受け、昭和14年には、第1回岡倉英語教育賞を受賞した。この時期、文化部、運動部共に活躍し、県下の優勝記録は非常に多数になった。

創立10周年以降、湘南は発展の途についたが、日本の国際情勢は、緊迫した非常時局にはいる。満州事変、上海事変、国際連盟脱退、盧溝橋事件から日華事変へと全面戦争となる。そして昭和16年12月8日米英と開戦、学校は非常時の教育となる。集団勤労奉仕、学徒勤労員、工場勤労員と「学徒勤労令」が強化される。昭和19年には米軍の反撃はいよいよ激しく、空襲に明け暮れ、授業不能となる。昭和20年に入ると戦況悪化、4月より授業停止。そして8月15日終戦。その後、食糧事情の窮迫で、再開された授業も進めることが出来ず、1週の4日間は午前中授業であった。これ

が正規に復したのは、昭和21年9月からである。

春原先生は、着任の翌年から、ずっと組担任をしておられる。このような時代、親密な若い教師と生徒との心の絆は深く、多くの思い出が残ると思う。私は、湘南卒業の恩師の紹介で、戦後間もない昭和21年2月から、数学の教員として勤めた。春原先生と私の恩師は、専門の数学を同じ教室で学ばれていた。私は、春原先生に16年間、公私にわたる親しいご指導をいただいた。私が勤務した頃、先生は既に勤務歴長く、経験豊かであられた。

赤木先生は、生徒達を戦後の暗さから明るさに戻すには、校友会各部の活動を盛んにすることだと考えられた。昭和21年野球部が創設され、蹴球部、排球部の全国優勝をはじめ、関東、県内の優勝は多かった。

昭和23年、赤木先生が依願退職され、4月から、教育制度の改革で、湘南は併設中学校を含めた湘南高等学校となった。赤木先生のご薫陶を受け、先生の大きな業績の影の力となって苦勞された教務主任(教頭)の上林、松川、香川先生が、第2代、第4代、第5代校長となられたことは幸運であった。

昭和23年、上林先生が、第2代の校長に就任され、湘南は新制高校として発足。定時制課程と通信教育部も設置された。湘南高校は新時代への試みとして、2期制、週5日制、100分授業、また第1回湘南祭が行われた。

昭和24年、併設中学校の門標は外され、第3代浅井校長が着任された。この年、創設3年目の野球部が全国制覇した。湘南の名声は高く、湘南の前途を明るくした。昭和25年度から男女共学となる。昭和27年3月、高校第4回生の卒業式が行われた。これが旧制中学生の最後の卒業である。昭和24年3月から昭和27年3月までの卒業生は湘南に6年間在学した。そして、湘南の成果を最も実現した人達である。昭和26年の大学入試では、東京大学に41名合格し、先年の野球部の全国優勝と合わせて、湘南の名声を高めた。

昭和28年、第4代の校長に、草創期、湘中の英語教育を牽引された松川先生が着任された。運動部・文化部も充実し、大学合格者は、女生徒の優秀さもあって、着実な推移をしていた。浦和高校からの申し入れで、第1回対浦高戦が行われた。当時、馴れ親しんだ木造校舎での日々の授業は楽しく、文化祭・体育祭などの思い出は多い。

昭和33年2月24日早朝の火災で、職員室のある本館その他を焼失した。松川校長の赤木先生ゆずりの対応で、逆境を乗り越え、12月湘南会館が竣工、昭和34年11月本館が落成した。

昭和36年2月、松川校長が勇退され、第5代香川校長が着任された。博覧強記、スポーツに堪能な校長のもとで、創立40周年を迎えた湘南は充実のときを迎えた。サッカー一部の国体出場など、それまで数年不振気味の運動各部が関東大会で活躍した。

春原先生は、長い間、数学科主任、教務主任をされ教頭になられた。親しい歴代の校長のもとで、湘南高

校の基盤を確立された先生の功績は大きい。先生の数学の授業は、理解され易いように工夫されたものであった。生徒の氏名を良く覚えておられ、にこやかに丁寧な接しておられた。

先生は、数学科主任の頃から、教科研究会の数学会役員をしておられ、昭和33年から3年間、第4代数学会会長として県内数学教育の推進に尽された。

先生は、昭和37年、教頭として希望ヶ丘高等学校へ転出され、昭和42年9月校長として三崎高等学校へ栄転された。次いで、昭和44年9月、小田原城東高等学校校長となられ、昭和47年退職された。小田原城東高校の校長になられた翌月から、退職後の昭和49年9月まで、県教育庁の教育相談業務を委嘱されておられた。昭和49年3月から教育出版社へ、また同年10月から鎌倉女学院にもお勤めになった。

先生は優れた収集家で、収集の品々を見せていただきお話を伺っていると、時の経つのを忘れ、また啓発された。同種・同類の物でも、価値に大きな格差のあることに驚いたものだ。先生は湘南の卒業生の同窓会には喜んで出席された。湘友会の役員をしておられた添田先生とご一緒のことが多かった。

先生は、神奈川県立高等学校退職校長会『有朋会』の会員800余名の中で、唯一人、明治生まれで最高齢者であった。先生は、教育一筋誠実に歩まれた。殊に、青壮時代の28年間を奉職された湘南の日々は忘れ難いと思う。しかも生徒達は、一人ひとり多才な俊秀である。先生は湘南の教師であったことを誇りに思っておられた。

湘南の校史資料のご提供を！！

校史資料蒐集整理委員長 篠田(33回)

80数年の歴史を有する伝統校といっても湘南は歴史を語る資料は少なく、体系的に整理されたものはありませんでした。そこで湘友会として同窓の皆様にお手持ちの資料の寄贈を呼びかけることになりました。

昨年の総会で本委員会が正式に決定され、活動を開始しました。3月現在寄贈いただいた方は12名で、寄贈点数は千点余りになります。それぞれ貴重なもので、在籍当時の思い出多き資料をご寄贈いただきました。

特に、故・春原先生の奥様からは、快く寄贈の申し出をいただきました。春原先生が戦前より集められていた、膨大な写真、資料など他では入手が困難なものも多数含まれています。

ご協力いただいた資料は体系的に整理して、将来的には専用の資料室を設け、誰でもが閲覧できるようにしていきたいと思っています。

蒐集は継続して行っていますので、今後とも僅かな情報でも湘友会事務所にお寄せいただければ幸いです。

予算・決算報告（省略）

ウェブ版湘友会報についてのご説明

ウェブ版は、会員のみならず会員以外の不特定多数の方々にも参照されるため、次の改変を行っていますのでご了承ください。

会員の氏名は、原則として、名前は削除し、姓のみ記載。また、連絡先電話番号、住所は削除。ただし、会長、副会長、校長先生、副校長先生、往時の先生方、著名な方、講演者、寄稿者、故人の姓名は原文のまま。

決算・予算報告、教職員の異動、委員会等の組織の構成員のリストは割愛。

湘友会ウェブマスター

財務委員会

委員長 中井（31回）

「10年会費」の全員納入のお願い

1997年よりお願いしてまいりました「10年会費」10年間分で5,000円の会費納入制度ですが、未納の方がおられます。

近年「校歌祭」「キャリア教育」等、会の活動の活発化に伴い、支出が若干増加傾向にあります。また本年3月末をもって、湘南高校通信制が60年の歴史に幕を閉じました。このため卒業時の湘友会入会金収入が見込めなくなり、会の年間財務支出の赤字が、今後大幅に拡大することが予想されています。

80年を超える歴史を持つ湘友会の更なる維持、発展を図るためには、皆様方全員の現状のご理解とご協力が不可欠です。会費納入の徹底をお願いします。（納入方法は、P.1の「総会運営の輪番参加と『10年会費』納入のお願い」をご参照ください。）

寄付のお願い

先の「10年会費」の全員納入のお願い」で記しましたように、会の財務収支改善を必要としております。湘友会の支部・同期会・部活OB・OG会等の諸会合や、個人での寄付をお願いします。払込用紙が必要な場合は、湘友会事務所にご請求くだされば送付致します。

サポート委員会

委員長 山田 (32回)

キャリア教育実施への協力

担当：山田 (32回)・小田貞宏 (現副校長)

< 1年生 > [2007年10月22日]

講師：岡本行夫氏 (39回)

演題：「夢」

経歴：一橋大学経済学部卒

外務省入省 エジプト、
ワシントンの日本大使館
勤務 小泉内閣の内閣官

房参与 総理大臣補佐官 (イラク担当)

外交評論家として活躍中

< 2年生 > [2007年11月19日]

講師：設楽卓也氏 (28回)

演題：「元商社マンとして」

経歴：早稲田大学理工学部応用化学科卒

三菱商事 (株) 入社
米国、ドイツ三菱商事
東京本社常務取締役
在学中硬式野球部で活躍
(春の選抜で甲子園出場)
サッカーJリーグで活躍
の三浦知良選手の義父

< 3年生 > [2007年6月25日]

講師：嶋村和恵氏 (49回)

演題：「昭和・平成TVコマーシャルから社会を見る」

経歴：早稲田大学商学部 早稲田大学大学院卒

早稲田大学商学部教授として活躍中

「青春 かながわ校歌祭」への協力・参加

担当：名井 (32回)・山口 (32回) 山田 (32回)

第2回「青春 かながわ校歌祭」が、2007年10月13日 (土) 県立青少年センターホールを会場とし、25校が参加して開催されました。担当は、32回。現役の合唱部・応援団、教員、OB・OG合わせて100余名が、「青春の歌」「五丈原頭」「校歌」の3曲を声高らかに歌いました。

運営面では、かながわ校歌振興会会長として天野武和会長が挨拶、開・閉会式での全体合唱指揮は伊集院氏 (31回) 副実行委員長の名井氏 (32回) は、全体のプロデューサーとして舞台・演出を担当。総合司会は小栗さん (60回) 応援団指揮は宮下君 (3年生) 校歌ピアノ伴奏は脇美さん (2年生) が協力しました。全体の雰囲気は、趣向を凝らした服装、伝統ある校旗・応援旗・のぼりなどを持参、昨年に比べ一段と華やかさが増しました。

今回初めての試みとして、懇親会を、渋谷氏 (33回) のお骨折りで、横浜ベイシエラトン ホテル&タワーズで開催、総勢27名で楽しく懇談しました。



定時制部会より

定時制部会長 杉浦

1. 湘友会での活動

(1) 湘友会総会に参加

定時制部会では、湘友会総会と同一日に総会を開催し、その後に湘友会総会に出席しています。昨年度は約60人の定時制会員が湘友会10年会費を納入しました。今年度は、8・18・28・38・48回生が輪番会員として総会の受付等を担当します。

(2) 湘友会入会説明会

湘友会への入会説明会を、3月4日 (火) に3年修生と4年生の卒業生に行いました。

(3) 補助事業など

定時制・通信制全国大会出場生徒に補助事業

10月6日 (土) 体育祭に補助事業

10月13日 (土) 「第2回青春かながわ校歌祭」に参加 (県立青少年センターホール)

11月11日 (日) 通信制課程の開課程式に出席 (本校)

2. 「進路セミナー」・「法律セミナー」の実施

キャリア教育講座として、昨年9月10日 (月) に「進路セミナー」を、11月26日 (月) には「法律セミナー」を、3・4年生を対象に実施しました。

一昨年に続いて2回目の

「進路セミナー」は、清

水義一東海大学教授 (定

6回) の講話や役員による

履歴書の書き方の留意

点を始めとして、求人票

の見方、面接指導、小論文指導、個別相談等を実施

しました。生徒たち双方違和感なく溶け込んで、「共

存感」を得る良い学習でした。本年度は、夏休み前

と9月に数回行うとより効果的かと、学校の年間計

画に入れてもらう意向です。また、「法律セミナー」

では、松本素彦弁護士 兼 税理士 (定15回) による

「悪質商法から身を守る！若者を狙う巧妙な手口」

と題した講話を、保護者を含め実施しました。生活

の上で大変に役立つ、考えさせる有意義な内容でした。

後輩を思いやる先輩講師の親しみのある暖かな

話し方が印象的でした。本年度もテーマを変え、卒

業生の有資格者に協力を得て講話を行う計画です。

3. 定時制課程の再編により単位制普通科高校へ

平成21年度に単位制普通科高校を設置することが平成17年に発表され、諸準備が進んでいます。単位制の新校は、学年によらず生徒が目的や関心に応じて主体的に必要な単位を取得できる仕組みで、弾力的な教育の展開が期待できます。今年度末で定時制の61年の歴史に幕を閉じる一抹の淋しさはあるものの、よき歴史や伝統は引き継がれ、さらなる発展に大いに期待しています。



通信制同窓会（むつみ会）より

むつみ会会長 若命

ありがとう 60ねん

昨年の11月11日（日）通信制課程の閉課程式が行われ、60年にわたる湘南高校の通信制は、平成20年3月で新校に移行致しました。

私が入学した昭和33年は高校進学率20%～30%位で10年後には中学卒業生はいなくなり、数年で通信制は役目を終えるのではと思っておりました。しかし、様々な理由で全日制・定時制の進学をあきらめた新入生を迎えており、多くの新入生にとりましては、高校卒業資格取得と内容は違いますが、高校生活を経験する最後のチャンスが湘南高校通信制課程でした。多くの卒業生は通信を卒業して本当によかったと思っております。通信で一生つきあえる多くの仲間と出会えた人、学ぶことの楽しさがわかった人、学べることの幸せがわかった人など勉強以外に多くのことを学びました。これもいつの時代にも通信教育の基本であります。添削に、少ない登校日の授業に心配り頂きました多くの先生方のお陰と感謝しております。

1月には最後の湘友会入会説明会があり、湘友会の良さをどのように卒業生に伝えたら良いか考えているうちに当日を迎えてしまいました。会場には200人位の卒業生で、立って聞いている生徒もいました。後で伺いましたら、今年の卒業生は210人位で、毎年130人～150人位ですので、湘南高校通信制で卒業した多くの生徒ががんばったと先生方からお聞きしました。このように努力して卒業した皆さんに、湘友会の良さをわかってもらえたか不安も残りますが、真剣に聞いてくれていた目を信じています。

通信制課程60年の重みと、卒業生である私たちの思い出が消えてしまうのは、本当にさみしいことです。そこで、湘南高校に通信制課程があったことを後世に残したいのと、私たち通信卒業生が総会などで学校に行った時に在学中のことを思い出して新たな気持ちになればと、記念碑の建立を計画致しました。計画に際しては湘友会会長はじめ湘友会の皆様、校長先生はじめ多くの先生方のお力添えを頂き、ありがとうございます。未だ半ばですが、紙面をお借りしてお礼申し上げます。



「こだわりの料理教室」も開催

支部だより

藤沢支部 2008年度「夏の集い」へのお誘い

恒例の湘友会藤沢支部「夏の集い」は、本年8月30日（土）18時より21時まで、グランドホテル湘南（JR藤沢駅より徒歩5分）にて開催される。講師は吉川君（34回）が「最新演歌事情」と題して講演し、持ち歌も数曲披露する。元NHKアナウンサーの吉川君は、素人のど自慢大会の司会や、紅白歌合戦の総合司会も務めたが、退職後は歌手としてプロデビューを果たして話題になった。講演のあとには豪華な立食パーティーが用意されているので、どの支部に所属しているかに関わらず、この機会に先輩、後輩のネットワークを広げ、心温まる一夕をお過ごし戴きたい。

（藤沢支部支部長 太田 34回）

鎌倉支部

鎌倉支部は逗子・葉山を含めて活動していますが、昨年の幹事会で、鎌倉支部長が長年務められた蔵並氏（20回）から中西氏（31回）に変わりました。

今年は5月17日（土）5時半から、鎌倉の二の鳥居前の浅羽屋で幹事会が開かれます。湘友会天野会長にもご出席いただき、会の様子を伺い、これからの活動について話し合う予定です。この幹事会は毎年春に開かれ、鎌倉・逗子・葉山に過去・現在 在住・在勤の方なら誰でも自由に出席できますので、気軽に下記へご連絡ください。

事務局：志賀野（47回）

茅ヶ崎・寒川支部

2007年度も恒例の11月23日（金）勤労感謝の日、阿部浅水館において天野湘友会会長、川井湘南高校校長をお招きし、46名の会員の出席をもって総会及び講演会、懇親会を開催しました。総会をつつがなく終え、講演会には講師として神奈川県警察本部暴力団対策課警部の高橋さんをお招きし、「暴力団等反社会勢力の実態とその対応について」と題して、市民社会に暗然と根を張っている暴力団の昨今の事情について講演をいただきました。これも湘南高校の社会的な信頼のおかげでしょうか、普段聞くことの出来ない貴重な内容を語っていただきました。皆講師の話に聞き入っており、懇親会においても興味津々あれこれの質問を浴びせていました。また、川井校長先生の周りにも輪が出来て、湘南高校の発展を校長先生に託した次第です。そして、最後は校歌斉唱、熱い気持ちを歌声にして秋の夜空に響かせました。

（鈴木 51回）

平塚支部



平塚支部は、2007年11月17日（土）17時から、グランドホテル神奈中平塚で、川井

校長、天野会長にご出席いただき、支部会員約30

名の参加を得て、平成 19 年度の支部総会・懇親会を開催しました。
(田中 36 回)

湘北支部

支部総会は、2007 年 10 月 28 日に町田市千寿閣で、来賓として、川井校長、飯島平塚支部長を迎えて開催しました(参加者 40 名)。記念講演は、比企能樹先生(慶応義塾大学評議員・27 回)を講師に迎えて、在学当時の思い出からオリンピックのボート選手時代の話も交えつつ、北里大学病院院長時代に経験した多くの実例を挙げながら、医師の倫理観について「お医者様って?」とわかりやすく話していただき、先生の話が聞きたくて特別参加をした会員の奥さん方は大感激でした。また、加藤正義元理科大教授(20 回)が編集したビデオ「湘南中学の思い出」が上映されて、往時の記憶を新たにしました。当支部の石川、本郷両副支部長と渡辺会員が春の叙勲の栄を受けたので、その栄誉も讃えました。今年度もゴルフとウォーキングは実行します。
(眞鍋 定 3 回)

横浜湘南会

2007 年 7 月 5 日(木)午後 6 時 30 分より、相鉄グループの横浜西口「横浜ベイシェラトン ホテル&タワーズ」にて第 17 回横浜湘南会を開催。恒例の小栗君(60 回)の名司会のもと、渋谷支部長(33 回)の挨拶に始まり、天野武和会長(31 回)より湘友会の現状報告があり、新堀君(25 回)の乾杯、卒業年次別の会員紹介など、参議院議員選挙に出馬予定の水戸君(56 回)の飛び入り演説等、常連や新顔入り交じって、思い出話や商談に華を咲かせ、賑やかに初夏の一夜を過ごしました。最後に校歌斉唱・エールで散会。
(片岡 37 回)



18 回生

2007 年 10 月 18 日(木)、我々 18 回生は同窓会を昨年と同じく藤沢産業センターで、藤沢地区在住者が世話役となって開催した。出席者総数 45 名。開会に先立ち写真撮影を行う。会は長谷川君の司会によって進められ、開会の辞を沼澤君が行う。次いで安藤君が世話人代表として、先ず現在藤沢地区にあって同窓会の事務局として活動してきた石井、中嶋、宮田の 3 君を紹介した後、我々の同窓会は少なくとも 40 年以上の歴史を刻んで来たが、最近はこの取り纏める世話人たちも当然のことながら高齢となり、これ以上は全体的な同窓会は無理と思うので、今回をもって全体的な同窓会は最後としたいのでご了承をお願いしたいとして挨拶を終えた。次いで中嶋君による物故者に対する黙祷の後、遠路遙々参加してくれた彦坂(神戸)中元(奈

良)本間(新潟)3 君により一同の健康と長寿を願って乾杯し、会食、懇談に移った。45 名の旧友は 1 年間のブランクも忽ち吹き飛ばし、和気藹々、懇談の群れが幾つもの出来上がるのはいつもの通り。話題はどれも健康、病気の話が中心になるのも年齢のせい。予定の 3 時間はあっという間に過ぎ、最後は鍋木君の指揮で「湘中懐古の賦」と「校歌」を合唱し、鎌田君の閉会の辞で終了した。
(中嶋)

19 回生 一休会その後



私達 19 回生は、卒業年次の 19 に因み、「一休会」と名付け、平成 2 年より、同期会を続けておりました。毎年 50 人を越す盛会を誇っておりましたが、15 回目の平成 16 年、全員が喜寿を迎え、卒業 60 周年という区切りでもあり、全体の集まりは終わりということにいたしました。戦時下、それも敗色濃厚な、暗澹たる雲行きの中での卒業でしたが、赤木校長はじめ熱心な先生方、そしてよき仲間恵まれ、多くの事を学び、吸収できた素晴らしい「湘南中学時代」でした。

そんな仲間が懐かしく、いくつかの小さな集まりが残っています。そのうちの一つ「二火会」が開催されました。2 月 12 日、小雨の降る高輪泉岳寺に集合、赤坂「たけがみ」で昼食、その後クラシックピアノサロン「鶴」を早い時間に開店していただき、ピアノ、ヴァイオリンの伴奏(池田君もヴァイオリンを演奏)で校歌は勿論、軍歌にいたるまで大いに歌い、呑み、語り合いました。隔月第 2 火曜日を定例の「二火会」としてはありますが、今回も充実した時を過ごすことが出来ました。池田、大沢、小野田、亀井、鈴木、鷹野、平塚、平野(50 音順)の 8 名、すっかり暗くなった 18 時過ぎ、それぞれ余韻を楽しみながら家路につきました。(幹事 池田・平野)
(平野)

20 回 5 卒の会

2007 年 11 月 23 日卒業 62 年記念同窓会を藤沢産業センターで開催。記念撮影後、宮原代表の挨拶に引続き西郎君のミニスピーチ『傘寿を迎えこれからの生活習慣と健康』がありその後歓談に移り和やかなひと時を過ごした。

尚、20 回 5 卒の同窓会は卒業 60 年を機に鎌倉、藤沢、平塚の 3 地区合同で、継続希望者 103 名の会に模様替えをし、毎年 11 月 23 日・藤沢産業センターにて定期的開催することに決め、本年は 38 名の出席があった。

会員の大半が傘寿を迎え『一人で外出が困難なため欠席』という返信が増えてきたので本年度より同伴者の席を設けることにした。

これからも更に相互の連携を密にし、楽しい余生を送ることを願っている。
(青木)

20回4卒の会

平成19年度の総会は、従来のグランドホテル湘南から、藤沢産業センターに会場を移し、気分一新2007年10月5日(金)開催された。昨年は、2つの台風に見舞われ、大荒れの天気だったが、今年は秋天高く晴れ渡り総会にふさわしい穏やかな天候に恵まれて、元気の会員諸兄47名が参集した。今回から、会場の都合で総会に先立って恒例の下里君による記念写真を撮影した後開会とした。

第1部は加藤君の司会により始められ、冒頭、植木会長より出席者への謝辞と、今年は我々会員は70代最後の年で男性の平均寿命である78.58歳をクリアしたが、来年は傘寿を迎えるまことにお目出度い年になるので、今後一層健康に留意し頑張っていく、など力強い挨拶があった。続いて黙禱、細君の指揮により全員元気よく、校歌斉唱、秋元君による会計報告、君塚君から監査報告があり、原案通り承認され、第1部を終了した。



第2部は司会を中原君に交代、総会の席をそのまま宴会に転用、妹川副会長の乾杯の音頭に全員健康を祝し杯を高く掲げ賑々しく開宴した。我々は入学

以来既に66年、約300名の同級生も今や物故者138名、消息不明者23名となり、波瀾万丈の世代だけに往時を偲び賑やかな宴に話は尽きないが、予定の時間となり、石川君の閉会の挨拶ついで、下里君の3本締めで、名残尽きない会もお開きとなり、来年傘寿の会の再会を期し散会した。(妹川)

26回生 来年に最後の総会

26会総会は従来より3年毎の開催で、前回は2006年11月清明会館で119人の参加で開かれ、この時次回2009年秋の総会行事で終止符をうつことを決定した。

総会とは別に、ここ10年10回「鎌倉の史蹟・尾根を歩いて大塔宮で宴会」という会を鎌倉在住の有志によって運営してきた。鎌倉に住んでいるから案内できる やぐら・切通し・尾根・社寺を廻って、夕刻から太平殿で持ち込みでの大宴会である。パーティーと違って畳の上での話し合いは遅まきながら新たな友情の発生もあって、年毎に参加者は増え、昨年12月14日の最終回と銘打った会には84人を数えた。この会は総会を補足する会であったが、一人の怪我人もでなかったことを幸いなこととして一応幕引きとし、自他ともに惜しみ惜しまれつつ、けじめをつけたのである。



さて明年の総会は、一泊案もあり、クラス幹事と最後の大会にふさわしく計画を練るところだが、この会には是非とも参加していただきたいものである。

(26会事務局・門田)

27回生 不作会

27期会は2007年6月15日、藤沢のグランドホテル湘南で慣例の同期会を開催した。

我々は終戦後間もない昭和21年4月に旧制湘南中学に入学し、昭和27年3月に湘南高校を卒業した。占領軍主導による学制改革により、入学当初予想もしなかった中高一貫教育を受けることになり、6年間を同じ学び舎で過ごすことになった。それだけに結末は固い。



我々は「今年は学校創設以来の不作の年だ」と言われて卒業した。それに因んで同期会を別名「不作会」と言う。不作と言われた仲間もそれぞれそれなりに花を咲かせ、実を

結んだようだ。当日は109名の仲間が集まった。

同期会は小泉幹事の絶妙な司会のもとで、総会そして懇親会へと進んだ。来賓の小山・斉藤・望月の諸先生、それに湘南高校の川井校長先生にもスピーチをいただいた。先生方のお話はそれぞれ個性に溢れて面白く、また60年余りの歳月を経て初めて聞く中学入学当時のクラス担任にまつわる秘話などもあり、我々一同懐かしい思い出に浸りながら拝聴した。その後、「関西不作会」の紹介、有志の近況報告などがあり、和やかな雰囲気の中で所定の時間はアツと言う間に過ぎ去った。最後は恒例の校歌、応援歌そしてエールで締め、来年の再会を約して散会した。

我々は齢70代の半ばになったが、これからも年1回集まることにしている。(宮脇)

前号の会報に続いて今回は、湘南27期会の仲間の辛島昇君を紹介しよう。

2007年10月27日、文部科学省はこの年の文化勲章(5名)と文化功労者(15名)を発表した。南アジア史の研究で第一人者の文学博士・辛島君は2003年の日本学士院賞の受賞について、見事に文化功労者に選ばれた。湘南中・高の6年間は勉強に励みながらも、生徒会の活動に精を出したり、サッカー部でボールをけったりしていた。また、将来は映画監督になりたいと、映画鑑賞会というクラブを作り、映画館通いもしていたようだ。しかし東大文学部の東洋史学科に進んでからは、「インダス文明」からスリランカのタミル・ゲリラに至るまでの南アジア史、それも南インドの歴史を研究、その業績はインドを含む世界の学会において高い評価を受けていた。特に10世紀から17世紀の古代・中世史研究において、石造ヒンドゥー教寺院壁に刻まれたタミル語刻文を史料とし、インドへ留学、現地で読解の作業を行うとともに、その研究に計数的分析の手法を取り入れたことが画期的であったといわれている。刻文中心の文献研究に基礎を置きながら、現地の海岸で史料としての中国陶磁片を探し回るフィールドワーカーとしての努力も高く評価され、1985年にはインド刻文学会、1995年には国際タミル学会の会

長も務め、研究成果はすべて英文でオックスフォード大学出版局から刊行されているなど、国際的な歴史学者であるといえよう。

氏は東大文学部で長く教鞭をとっていたが、現在は大正大学で後輩の指導にあっている。また、かつて史学会に勤務し東大研究室におられた女性（貴子さん）を伴侶に迎え、長期にわたったインド生活は、奥様の著書「私たちのインド」やご夫妻の共著「カレー学入門」にみえるように、内助の功そのままにカレーの研究にまで及んでいる。われわれの同期会では“海のシルクロードとカレーのはなし”を講演してくれた。

今は亡き江藤淳君や吉野壮児君が鎌倉と湘南を通しでの幼友達であったことも付記しておこう。

（杉山）

30 回生

恒例の同期会（第16回）は、2007年11月10日（土）午後3時より、グランドホテル湘南に於いて開催。小山、望月両先生をお迎えし、我々仲間91名が参集。今は亡き恩師・同期生に黙祷を捧げたあと、例年以上の大変な盛り上がりで、同期の繋がりを一層深めた秋の一時でした。

本年度の同期会（第17回）は、9月26日（金）午後3時よりグランドホテル湘南にて開催します。

又、卒業50周年を機に発足した「悠稀会」の第2回展示会は、2007年9月18日から23日迄、茅ヶ崎市民ギャラリー展示室にて開催、多くの来場者がありました。

本年度の第3回「悠稀会展」は、8月26日（火）～31日（日）午前10時～午後6時、茅ヶ崎市民ギャラリーにて開催します。

同期会、悠稀会の詳細は、追ってお知らせします。

湘友会ホームページに、3年前に開催した「卒業50周年記念作品展」の作品を掲出しておりますのでご覧下さい。

（遠藤）

31 回生

2007年は9月8日に、鎌倉芸術館で15回目の同期会を開き、花見 赫君が「日本歴史唱歌」という日本史の授業を思い出させる楽しい歌を作られましたので、その披露と、中森明菜などが所属した「研音」の社長として活躍された彼の人生観などを聞きました。そして恩師の小山文雄先生からは、「日本近代史の人々」という先生が出版される予定の夏目漱石をめぐる人物の貴重なお話を分かり易くしていただき、高校時代の授業を懐かしく思い出す人もいました。天野武和湘友会長からは、「湘友会の現状」についての話があり、「湘高新聞復刻版」や武藤先生の記念誌出版とかゴルフの会などの紹介もありました。来年は野球部で甲子園に出場したり、母校の監督や鎌倉市長も務めた中西君の話聞く予定ですので、ぜひご出席下さい。

連絡先：内海恒雄 Tel&Fax 0467 - 22 - 6931

（内海）

33 回生 燦々会

33回生同期会燦々会の第5回会合を、10月26日横浜ベイシェラトン ホテル&タワーズで開催しました。73名が出席し、校歌や応援歌を歌ったり、歓談したりで、楽しいひと時を過ごしました。

今年10月開催の第3回「青春かながわ校歌祭」では、33回生が当番になりますので、多数の仲間が参集できるように、参加を呼びかけました。



第6回燦々会は、35組が幹事役を務め、10月24日に開催の予定です。（江崎）

41 回生 学年同窓会

昭和41年卒業の学年同窓会「湘南良々会」は、ほぼ全員が還暦を迎えた3月16日（日）グランドホテル湘南において正午より、参加180人で盛大に開催した。当日は来賓に恩師小山、杉山、安田の3先生、加えて天野湘友会長と川井校長をお招きした。ウェルカムドリンクで入場のあと、林代表幹事の開会の挨拶に続き、物故者に黙祷を捧げた。宴は井上君の軽妙な司会でスタート、最初は小山先生の70分日本史授業ならぬ、諸般の事情による数分間と短い課外授業「生きる姿勢」夏目漱石語録から三つの言葉「拙」「自分流」「人情」を取り上げ、還暦をすぎてからの心構え、自己の存在意義、義務から厚意への転換を参加者に語りかけた。昔とかわらぬ熱い姿勢であった。恒例の校歌斉唱は、今回は吹奏楽（CD）をバックに応援団望月君のエール付き、ブラジル湘友会の紹介のあと、「青春の歌」を高らかに歌う大団円のおひらきとなった。

（鈴木）

いろいろ湘友会

秀麗会（英語研究部OB会）



2007年11月11日（日）JR桜木町駅徒歩5分のレストラン「ガス灯」（三愛ヨコハマホテル）において、第28回総会を開催しました。「秀麗会」は、

英語研究部OB会として1980年（昭和55年）に発足して以来、活動を継続しています。会員数は現在69名です。「湘友会報」がきっかけで昨年度より2名会員が増えました。当日は、総勢18名（お子さん3名）が集まりました。幹事の小山田さん（58回）・清水さん（60回）の進行のもと、最初は阿部会長（46回）の開会の挨拶と乾杯で始まり、歓談では過去のOB会旅行の写真や出席者が最近出版した本の回覧等があり、皆さん懐かしくまた様々な話題で盛り上がりました。その後、

恒例の全員の近況報告を行いました。総会初出席で高校卒業以来初めて顔を出したという人もいて、お互い懐かしくも新鮮な再会となった楽しいひと時でした。今年の会場は落ち着いた雰囲気の中でゆったりと歓談ができる場所で、楽しいという声の中、あっという間の約3時間の会はお開きとなりました。

2008年度は11月第2または第3日曜日の開催予定です。(外崎 54回)

相撲部OB会

これは、昭和38年以来休部を続けている相撲部のOB会レポートである。

湘中相撲部へ入部した小林(24回)・斉藤(25回)・高橋(27回)等の諸先輩によると30人近くの部員がいた由であるが、細い白線を外した湘南高へ国民学校最後の卒業生が新制中学を経て女子生徒と共に入学してくると、入部希望者なく、忽ち存続が危ぶまれた。

その後、個人技要素が強いスポーツであることもあって、少数部員が青春の軌跡を土俵に刻みつつ星霜を重ねたが、39年4月、「現在休部、校内大会の予定もなし」を最後の記録として現在に至っている。

OB会もここ何年間か休部状態にあったが、平成19年7月28日、藤沢市民会館に19回から38回までの23名が一堂に会した。

顧問の先生方は勿論、欠くべからざる多士済済のメンバーも既に鬼籍に入って久しい。

数多くの対戦記録も賞状も勝盃も烏有に帰し、土俵の跡さえも求むべくもない。

しかしながら追憶の資には事欠かない。汗と砂と共に刻まれた土俵の思い出は、湘南の特徴である正確な浄手水(ちりちょうず)の特訓に始まり、得意技から各種大会の回顧、果てはとんでもない! 打明け話に至るまで、止まる処を知らぬ熱弁訥弁に盛夏、午下がりの一時は瞬時にして過ぎた。

辿り来し人生いろいろ、体調またさまざま、最若手(既に六十路)が傘寿を迎えるとき、OB会も永久休部になるかなと予感しつつ、それでも再び相見ゆるときを約し、校歌斉唱、エールを行ったのち散会した。

(OB会長 早坂 28回)

福祉湘友会

2007年7月14日(土) 藤沢市民会館にて、全54回山田さん(内科医・NPO法人子ども虐待ネグレクト防止ネットワーク理事長)を講師に子ども虐待の現状について研修、懇親会を、2008年1月19日(土) 藤沢市民会館にて総会・新年会開催。次回も藤沢市民会館にて、7月第1~第3土曜日に研修・懇親会を開催の予定です。

福祉湘友会は「福祉」を福祉施設の現場にのみ狭く捉えるのではなく、地域で、職場(民間企業の福祉産業への参入も含め)での福祉への関わりを幅広く捉え、福祉に関わっていると考えるすべての湘南中学・高校の卒業生の親睦・交流・研修の場です。まだ参加され

ていないOB・OGの方、是非一度下記幹事までお問合せ下さい。(奈倉 37回)

幹事：全37回 奈倉、全46回 小林

湘籠会(バスケットボール部シニアOB会)



バスケットボール部に在籍したOBで還暦を過ぎた卒業生によって構成されている湘籠会(しょうろうかい)は、毎年6月に総会を開催しています。開催地は藤沢と横浜を隔年で交

互に設定しており、2007年は6月16日横浜崎陽軒本店で、第13回総会を開催致しました。出席会員は40名、安田会長の挨拶、出席者中最年長の稲垣会員(13回)の音頭で乾杯し、懇親を深めました。各年代の近況報告や、現役当時に戻って話に華が咲き、前年の湘友会総会で披露された「還らぬ日々」の上映もあり、盛りだくさんの懇親会となりました。最後は全員で校歌を斉唱し、1年後の再会を約して解散しました。2008年の総会は、会場を藤沢に移して開催の予定です。

昭和41年卒の5名が入会し、総会員数は118名(2008年3月現在)となりました。

(大高 36回)

湘友会ホームページ

湘友会SNSが始まっています

この2月から会員同士の双方向コミュニケーションの機会を提供する湘友会SNS(ソーシャル・ネットワークキング・サービス)が、湘友会会員限定の招待制で始まっています。ご自分の日記帳として、同窓生との時間と距離を超えての交流に、会員の皆様の情報発信ツールとして、さまざまにご利用いただけます。

「湘友会ネット図書館」を新設し、HPに追加しました

会員の著書を紹介する「湘友会ネット図書館」を設置しましたので、貴著の紹介にご利用ください。会員のリンク集と同じく掲載依頼にもとづき著書のタイトルと概要、書籍情報へのリンクを掲載し、適宜メインページにて新着紹介をし、会員に案内していきます。

詳しくは、湘友会ホームページをご参照ください。

(湘友会ウェブマスター 米満 37回)

人・生き生き

CMプランナー・コピーライター
福里 真一 さん(62回)



ふくさと しんいち

1968年鎌倉生まれ。一橋大学社会学部卒。電通入社。2001年よりクリエイティブエージェンシー「ワンスカイ」所属。数多くのテレビCMの企画・制作を手がける。主な仕事に、吉本総出演によるジョージア「明日があるさ」シリーズ、樹木希林らの富士フィルム「フジカラーのお店」シリーズ、SMAPのNTT東日本「フレッツ」シリーズ、サントリーBOSS「宇宙人ジョーンズ」シリーズなど。ACC(全日本CM放送連盟)グランプリ、CCC(東京コピーライターズクラブ)グランプリ、クリエイター・オブ・ザ・イヤーなど受賞。

<学校文化の違いを感じて～湘南高校時代まで～>

私は北鎌倉に育ち、山崎小学校に通いました。田んぼや山に囲まれ、当時は自然が豊かで、ザリガニを釣ったり、おたまじゃくしを捕ったり、また、秘密基地を作ったりして純朴に遊んでいました。

その後、大船中学校に進みましたが、当時は、不良文化の全盛時代。わからない方は、ビデオで、当時のテレビドラマ『3年B組金八先生パート2』を見ていただければわかりますが、男はだぼだぼのズボン、女は地面を引きずるようなロングスカートで、あれは今考えると、どういうファッションセンスだったんでしょうね(笑)。そして、学校全体が怒号と暴力にあふれているような感じでした。先生も生徒に隙を見せないような過剰防衛し、私から見ると、「そんなことで、そんなに怒るかよ」という感じで、けっこう緊張感に満ちた中学時代を経験しました。

ですから、湘南高校に進学して、あまりにも健全で平和で、ほっとするとともに、すぐにはそれになじめない部分もありました。とにかく、同級生が立派な生徒ばかりで、あ然としましたね。体育祭や合唱コンクールなど、学校行事に全力で取り組んで、みんなを一致団結させて引っ張っていかこうとするリーダー的な人物が多かったような気がします。

そのような校風の中で、私は集団に入らないで、遠くから眺めているような生徒でした。合唱コンクールの練習の思い出ですが、非常に日差しが強く、蒸し暑

い日に屋上で練習をしていました。そしたら、何人かの女子生徒が気分が悪くなって倒れたんですね。当然、練習は中止になると思っていたのですが、リーダーたちは、「集中だよ、集中!」と(笑)。集中が足りないから、倒れるんだと。正直、この人たちにはついていけないなあ、と思いました(笑)。

私は、現在、CMプランナーという職種につき、人と商品や企業との関係をCMを通して描くということをしてしていますが、一番大事なものは、人間観察ともいえるんですね。そう考えると、中学、高校と、なんとなく学校の雰囲気になじめず、結果的に、遠くから同級生たちの様子を眺めている姿勢を通じたことが、今につながっているのかもしれない。

湘南では仲間に入れないということで、暇なときは図書室に行くのが好きでした。そこで、一橋大学名誉教授の南博先生の社会心理学の本に出会い、後の大学進学に大きな影響を与えました。

<呆然たる学生生活～一橋大学時代～>

大学は一橋大学社会学部に進学しました。志望動機は、表向きは社会心理学を学びたいという理由でしたが、首都圏の騒がしい感じがする大学と比べ、一橋は静かでおとなしめの学生が集まっていてなじめそうだったという理由もありました。

4人部屋の学生寮に入寮しましたが、相変わらず集団行動には参加せず、私だけが孤立していましたね。そのころは、中学、高校、大学と、いつも、同じなわけですが(笑)。私の大学生活は、バブルの絶頂期で就職しやすいということもあって、ただ呆然として過ごしました。

サークル活動は、テニスサークルのような華やかなものに入るのは自粛し、一橋の中でも暗くてはじかれた学生が集まる、雑誌づくりのサークルに入りました。『一橋マージャー』という雑誌を発行するサークルなのですが、ノンフィクション作家杉山隆男氏が創立したもので、前長野県知事の田中康夫氏も編集長をしていたことがあるそうです。

その雑誌で私がやっていたのは、会ってみたい作家や学者のところに出かけ、インタビューし、取材記事としてまとめる、といったことです。ちょうどデビューしたての作家、吉本ばなな氏のところへインタビューに行ったことなどが、印象に残っています。

また、こんな思い出もあります。一橋大学の学園祭では、最終日に、学生達が盛り上がり本校舎の池に飛び込む風習があるんですが、私たちサークル仲間は、「そんなところへは行けないよ」という感じで、東校舎の誰もいない池へ行きました。ここで自分たちだけで池落ちをやるということになり、先輩たちが「福里を落とそうぜ」と言い出し、私を池へ落とそうとしたんですね。でも、私は湘南時代バレーボール部だったこともあり、意外と力が強かったので、ひ弱な文学青年タイプの先輩たちにはどうしても私を落とせなくて(笑)。私も場の雰囲気を察知して、池に落ちてあげ

ればよかったのですが、結局、誰も池に落ちずに、どんよりとした気持ちになって「じゃあ、帰ろうか」と、その場から漫然と立ち去った記憶があります(笑)。

<CMプランナーへの道~電通入社~>

大学4年で就職を考える際、組織の中でうまくやったり、リーダーシップを振るうのは苦手だったので、普通の会社員としては通用しない自覚がありました。

研究職ならなんとかかなかなと思ひ、専攻していた社会心理学とも関係がありそうだったので、企業のシンクタンクを何社か受けてみました。その中で、電通総研という会社を受けて、そこは落ちてしまったのですが、面接官が調査研究を希望するなら、電通本社にもそういう部門があるので、受けてみたらどうかというアドバイスをくれました。私は、面接時に「私は昔から誰ともうまくやれなかった。周りの人が何を考えているのかまったくわかりません。だから、世の中の人々が何を考えているのか調査研究するような仕事につきたい」という主旨の発言をしました。暗いですよ(笑)。たぶん、私の発言は暗すぎて目立ち、本来電通に来ないタイプなので、おもしろがられて採用されたんじゃないでしょうか。

電通に入社し、研修期間を経て、東京本社のクリエイティブ部門に配属されました。広告を企画し、制作する部門です。希望していた、研究職という職種とは違いましたが、そんなにショックではありませんでした。研修では、広告のコピーを考えたり、CMのストーリーを考えるということだけでしたので、すべて紙の上だけでできることで、自分には向いているなど内心思っていました。実際に始めてみると、スタッフとのやり取りなど、けっこうコミュニケーション能力も必要な仕事だったんです。

CMプランナーになりたての頃は、自分の個性を出したり、自分にしか考えつかないことを考えたりすることで、強いCMができるのではないかと考えていました。そんな前提で私が考えた、ちょっと暗く、世の中を斜めに見る企画に対して、先輩たちはおもしろいと言ってくれましたが、そんな広告をつくりたい広告主はいませんよね(笑)。それで、企画がまったく通らない時期が何年間ありました。

入社5年目の時に、『通販生活』のCMをつくりました。「もういやだ。こんな生活」「じゃあ、どんな生活がいいんだ?」という会話の流れの中で、『通販生活』という商品が出てくるという内容です。このCMは、そこそこ話題になり、広告業界でも評価が高く、コピーライターの登竜門と言うべき、東京コピーライターズクラブ(TCC)の最高新人賞を受賞しました。これで少しは仕事も順調になるかと思いきや、逆に暗そうな奴が暗いCMをつくったと、ますます警戒されるようになり、かえって仕事が減ってしまいました。

<CMを企画するにあたって~発想の転換~>

さすがにこのままではだめだなと感じ、一度自分ら

しさを忘れて、素直に広告主の求めることを実現することに徹してみようと思いました。そうしてできたCMが缶コーヒージョージアの『明日があるさ』シリーズでした。広告主の要望は、「新しい世紀を迎えるにあたって、働く人々が前向きな気持ちになりたがっている。その気持ちを後押しするような缶コーヒーを描いてほしい」というものでした。決して私自身の心の中に「明日があるさ」という気持ちがあった訳ではないんです。それがヒットして、いいのかな、こういうことでという気持ちも内心ありましたが、今考えると、自分らしさを、無意識のうちにどうしてもにじみでるものだから、わざわざ意識的にそれを表現しようとする必要はなかったんですね。

今、サントリーBOSSの『宇宙人ジョーンズ』シリーズのCMがテレビで流れていますが、広告主か



らは「見た人が元気になれるCM」ということを求められ、それはどういうことか考えました。最近、ニュース番組からは、「人間ってろくでもない動物だ」と思わざるを得ない、暗いネガティブなものばかりが流れています。そこでニュースの逆をやりたいと思いました。「人間のちょっとかわいいところとか、

ばかばかしいけれど愛せるところ」をCMを通して報じていこう、と。地球調査にやってきた宇宙人が、「ろくでもないけれど、ちょっと愛せるこの惑星」を毎回報告してゆく。そうすれば、見た人が、少しだけ元気になってくれるCMができるかな、と思って、制作しています。

私のつくるCMは、とてつもなくおもしろいというものではないと思います。普通に生活している人間を描くことで、そのCMを見た人が、確かにそういうことってあるなあ、と思ってくれるような、そのことで、広告している商品や企業に好意をもってもらえるような、そんなCMをつくれればいいなと思っています。それには、なんとなくいつも集団になじめず、外側から人間観察をしてきたことが、けっこう役に立っているのかも知れません。最後に商品に対して嘘をつかない、消費者を裏切らないCMをつくるのが一番大事なことだと考えています。

大変ありがとうございました。私たち同窓は、福里さんのご活躍を今後も祈念しております。

<2007年12月16日 東京ワンスカイ事務所にて>

聞き手：江藤(36)、渡邊(38)、柏木(51)

(文責 柏木)

湘友会会員数2008

2008年3月の新入会員は合計641名で、内訳は、全日制315名、定時制49名、通信制277名(一般生8名、少年工科学校269名)でした。その結果、2008年現在の会員数は、判明している物故者を除いて約47,000名となります。

湘南高校新入生2008

| | | | |
|-----|---------|---------|--------|
| 全日制 | 男子 186名 | 女子 133名 | 計 319名 |
| 定時制 | 90名 | 69名 | 159名 |

2008年春の湘南高校職員異動

略

湘友会事務所より

* 記念品販売中

多少の残部があります。購入を希望される方は、事務所までお問い合わせ下さい。(価格は送料込)

| | |
|---------------------|--------|
| 湘友会名簿 | 5,000円 |
| 湘高新聞復刻版 | 3,000円 |
| 80周年記念誌 | 1,800円 |
| 絵はがきセット | 700円 |
| 新校舎落成記念テレカ | 1,200円 |
| (歴代校舎写真入り 50度数×3枚組) | |

* 「湘友会報」バックナンバー寄贈のお願い

湘友会では90・100周年に向けて、校史資料の充実を図っており、その一環として「湘友会報」バックナンバーの整理を行っています。

第3号・第4号・第5号・第7号・第8号を提供していただける方は、事務所までご連絡下さい。

* 会報編集部から寄稿に関するお願い

毎年2月末までに届いた同期会、クラブOB・OG会、各種湘友会などの記事は、会報に掲載できます。連絡先明記の上、記事(300字程度)や写真(1枚)をまとめて事務所に直接お送り下さい。事務所宛にフロッピーディスク(windows版)直送や、文書ファイルを添付してメールを送信していただいても結構です。**2月末日の締切期限厳守**でお願いします。

「同期学年全体にわたる集い」「同窓会全体に呼びかける集い」「クラブ毎のOB・OG全体の催し」について会報に掲載する旨の基準を設けさせていただいております。ご不明のときは、事務所にお問い合わせ下さい。ご協力よろしくお願いします。

後記

「湘友会報」は、ホームページでweb版を見ることができます。

会員の住所変更については、湘友会ホームページ、E-mail、はがき、またはFAXで、湘友会事務所宛お知らせ下さい。特に物故者については、連絡者を明記して下さい。

事務所では、多くの迷惑メールに悩まされています。判り易い具体的な件名をつけて送信をお願いします。

来年2009年の総会運営は、卒業回数末尾「9」の方々を中心にとなります。全日制的39・49・59・69・79回生の皆さん、定時制・通信制の9・19・29・39・49回生の皆さん、出番です！よろしくをお願いします。

第50号の編集スタッフ

略